

●●「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の活用について●●

指導部主任指導主事 平井 邦明

小学校第 5 学年の児童及び中学校（中等教育学校）第 2 学年の生徒を対象にした、平成 26 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を、7 月 3 日（木）に実施しました。各学校におかれましては、円滑かつ適正な実施に御協力いただき、ありがとうございました。

各学校では、夏季休業日等を利用して採点や調査結果の集計等に取り組みされることと思います。ぜひ、採点結果はもちろんのこと、児童・生徒質問紙調査と調査結果の相関データ等も活用して自校の課題を把握していただき、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を今後の授業改善に結び付けていただくようお願いいたします。

さて、今年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、児童・生徒に返却する「個人票」を中心に、次の点について改善を行っています。

第一は「復習のポイント」の明示です。昨年度までは、各教科の正答数に合わせて「コメント」が表示される形となっていましたが、今年度は、間違えてしまったときに何を復習すればよいのか、どのような点に注意してもう一度チャレンジすればよいのかを「復習のポイント」として、「個人票」とは別に、問題ごとに示すことにしました。小・中学校共に裏表印刷で全教科分が 1 枚に収まりますので、間違えてしまった問題の復習の際に活用できるよう、「個人票」と合わせて配布いただきたいと思います。

第二は「東京ベーシック・ドリル」との関連の明示です。既に全小学校に CD により配布している「東京ベーシック・ドリル」ですが、今回実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の問題の一部について、間違えてしまったときに復習できるよう「東京ベーシック・ドリル」のシート名・番号を表示する形式にしました。「個人票」裏面の下段に表示がある児童・生徒には、ぜひ、該当シートに取り組みせていただきたいと思います。

なお、この「東京ベーシック・ドリル」は小学校 4 年生までの基礎的・基本的な内容をまとめた反復教材であるため、小学校を対象に配布をしていますが、間もなく東京都教育委員会ホームページに掲載しますので、中学校や家庭でもご活用いただきたいと思います。

さらに、中学校用の「個人票」には、過去の「都立高校入学者選抜学力検査問題」のうち、今回の調査問題と関連がある問題について、選抜年度や問題番号を表示しました。もう少し学習を進めていかないと解くことができないものもありますが、ぜひ、チャレンジしてほしいと願っています。

このような「調査票」を中心とした改善は、「できなかった問題や分からなかった問題をそのままにしないで、できるまで・分かるまで取り組ませる。」という考えから行ったものです。各学校におかれましては、今回の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の問題をしっかりとクリアできるよう、児童・生徒に粘り強く取り組ませていただきたいと思います。

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを送信してください。

なお、本メール・マガジンは PDF ファイルにて提供いたしますので、携帯電話では読めない場合があります。

また、メール・マガジン「Scrum」のバックナンバーは、

[《東京都教育委員会ホームページ》](#)[学び応援ページ》](#)[確かな学力》](#) で御覧いただけます。

平成26年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を終えて 課題やつまずきの把握から授業改善へ

7月3日（木）、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施しました。この調査の結果から、児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの状況を把握し、授業改善へとつなげる取組の例を紹介いたします。

小学校・国語

⑥「物語の基本的な特徴を理解し、書くことができるか」をみる問題（書く能力）

どの選択肢を選んでいるかを分析することで、児童が既習の内容のどの部分に課題があるのか、どこでつまずいているのかを、把握できるよう、調査問題を作成しています。

誤答の分析から、児童の課題を把握しましょう。

誤答の分析から
課題を把握



< アを選んだ児童 >

冒頭部には、物語の状況や登場人物の設定について書かれてあることが多いという物語の基本的な特徴の理解が十分ではなかったことによるものと考えられます。

< イを選んだ児童 >

地図を見付ける場面と、カギを見付ける場面のつながりを考えて書くことができなかったことによるものと考えられます。

< ウを選んだ児童 >

物語の基本的な特徴である、事件とその解決が繰り返される構成についての理解が十分でなかったことによるものと考えられます。

< オを選んだ児童 >

最後に宝を手に入れて、家に帰るとい物語の結末と、そこへと至る事件展開という関係についての理解が十分でなかったことによるものと考えられます。

課題に応じた
手立ての工夫



●物語の特徴を生かして書くことができない児童には…

物語を書くという言語活動を行う際は、「読むこと」との関連を図ることが大切です。物語を読むことを通して学んだ、物語の基本的な特徴（「物語のはじめには、場面の様子や登場人物の説明が書かれていることが多いこと。」や、「物語には、大きく話がもり上がる場所があることが多いこと。」など）を思い出しながら、書くことを楽しめるようにすることが大切です。中学年では、物語の基本的な特徴を十分満たさなくとも、創造的な表現をすることの楽しさを実感させることも大切です。

「書く能力」⑥

オ	イ	ウ	エ	ア
<ul style="list-style-type: none"> 一本松にたどり着き、たからばこを見つけた。 たからばこは、二つで一つの星になる友しようのペンダントだった。 うら山から出て、家に帰ると地図は真っ白な紙になっていた。 	<p style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px;">エ</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">↑正答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ナオと二人で、地図をたよりにたからをさがしに行き、うら山にたどり着いた。 たからがかくされている一本松が見つからず、二人は道にまよってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図には、たからばこを開けるためのカギが必要だと書いてあった。 二人はカギを必死にさがし、公園の池でようやくカギを見つけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒロコは、夏休みのある日、親友のナオと公園で待ち合わせをしている。 シーソーのそばにふしぎなたからの地図があるのを見つけた。

⑥ かずこさんのクラスでは、来週、自分で書いた物語をおたがいに読み合う会を開くことになりました。かずこさんは、今、「物語の組み立てシート」を使って、物語を考えています。あとの(1)から(4)までの各問題に答えましょう。

(1) かずこさんは、物語を読む人がもっと楽しめるように、物語に左の【カード】の内容を加えることにしました。【物語の組み立てシート】に【カード】を入れる場所として最もふさわしいのはどこですか。【物語の組み立てシート】のAからCまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

【カード】

・人間の言葉を話せるネコのラミーがとつ然あらわれ、案内してくれた。
・二人は、おそろおそろついていくことにした。

調査問題を活用した「立ち戻る指導」について

～東京ベーシックドリルを活用して～

調査結果から子供の現状を把握した後、その課題を解決するための具体的な手だてを考えましょう。子供一人一人のつまずきの箇所から、それに適した補充の問題を用意し、できなかった問題をできるようにすることが大切です。

小学校・算数

だいすけくんの考え「10(倍)」「10分の1」が答えられなかった児童は、ある数を10倍、100倍したり、10分の1、100分の1にしたりする学習が十分に身に付いていないと考えられます。

立ち戻る指導として、東京ベーシックドリル4年5の練習問題に取り組みせましょう。

4年 5 (2)	小数の表し方	名前
□に当てはまる数を書きましょう。	□次の数は、0.01を何こ集めた数でしょうか。	
① 1の $\frac{1}{10}$ は□です。	① 0.06	
② 1の $\frac{1}{100}$ は□です。	② 0.07	
③ 10の□は0.001です。	③ 0.71	
④ 0.1の $\frac{1}{10}$ は□です。	④ 2.5	
⑤ 0.01の $\frac{1}{10}$ は□です。	⑤ 4と0.26を合わせた数	
□0.02について考えましょう。	⑥ 8より0.04小さい数	
① 5は、何の位の数字ですか。	⑦ 8.3より0.04大きい数	
② $\frac{1}{1000}$ の位の数字は何ですか。	⑧ 0.01を630こ集めた数	
③ 4.82は1を□こ、0.1を□こ、0.001を□こ集めた数です。	⑨ 0.76を100倍した数	
④ 5より□小さい数です。		
□の数はいくつにならぬか		
① $\frac{1}{10}$ 10倍 2.84 100倍 $\frac{1}{100}$	② $\frac{1}{10}$ 10倍 0.83 100倍 $\frac{1}{100}$	

間違えた問題に応じて、東京ベーシックドリルの立ち戻るとよいシート名が、表記されます。個に応じた指導の充実のために、御活用ください。

算数	10	種類
<ul style="list-style-type: none"> ・4年 8 小数のかけ算 ・4年 12 分数のひき算 ・4年 4 式による表現 ・4年 9 小数のわり算 ・4年 1 整数の表し方 ・3年 1 整数の表し方 ・4年 5 小数の表し方 ・4年 14 面積 ・4年 16 平行四辺形 ひし形 台形 ・4年 17 立方体、直方体、ものの位置 		

3 だいすけくんとさきこさんの学級では、次の問題に取り組んでいます。

【問題】

13.5mのひもを45人で等分すると、1人分のひもの長さは何mになるでしょう。

この問題の答えを求めるために、だいすけくんとさきこさんは、 $13.5 \div 45$ という式を立てました。そして、これまで学習した整数どうしのわり算を使って計算のしかたを考え、それぞれ次のように発表しました。

だいすけくんとさきこさんの考えの□アから□エに当てはまる数を、それぞれ書きましょう。

【だいすけくんの考え】

13.5mを□ア倍して、135mと考えると、計算をしました。

$$135 \div 45 = 3$$

$13.5 \div 45$ の答えは、この計算の答えの□エになるので、1人分のひもの長さは、0.3mです。

答え 0.3m

【さきこさんの考え】

13.5mを□ウmが135個と考えると、計算をしました。

$$135 \div 45 = 3$$

これは、□エmが3個分ということなので、1人分のひもの長さは、0.3mです。

答え 0.3m

【数量や図形についての知識・理解】⑧⑩

3年 6 (1)	小数の表し方	名前
□□に当てはまる数や算を書きましょう。	□水のかさば、それぞれ何リですか。	
① (0.1) (0.2) (1.2) のような数を□□といえます。	① $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{100}$ のような分数を□□といえます。	
② () $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{100}$ のような分数を□□といえます。	②小数で、4人分のすぐちの花を□□といえます。	
□ 次の数を整数と小数に分けましょう。整数には□、小数には△をつけましょう。	□ 高はしから、①、②、③、④までの高さば、それぞれ何cmですか。	
① () 0.3 ② () 4 ③ () 2.9 ④ () 3.6 ⑤ () 5.8	① $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{1000}$ $\frac{1}{10000}$	
□ 次の□□に当てはまる数を書きましょう。	① 0.14Lが5つで□L	
① 0.14Lが5つで□L	② 0.4Lが□L	
② 0.98Lは、0.14Lが□二分	③ 11と0.7Lを合わせて□L	
③ 11と0.7Lを合わせて□L	④ 6Lと□Lを合わせて、6.6L	

さきこさんの考え「0.1 (m)」が答えられなかった児童は、ある数を単位小数のいくつ分であるという、数の相対的な見方が十分に身に付いていないと考えられます。

立ち戻る指導として、東京ベーシックドリル3年6の問題に取り組ませましょう。

児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの原因を把握し、より効果的な指導へとつなげるために、調査問題と東京ベーシックドリルをぜひ御活用ください。

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査問題及び解答は、東京都教育委員会ホームページの [学び応援ページ](#) で御覧いただけます。



個人票作成プログラムによって作成される「個人票」や「間違えてしまったときの復習のポイント」を活用しましょう！

現在、採点や個人票作成プログラムの入力を行っている学校も多いことと思います。

本年度は、個人票作成プログラムによって作成される「個人票」を改良し、児童・生徒のつまずきにに応じた指導に活用できるようにしています。その活用方法について、具体的に示します。

個人票の活用について

受検した児童・生徒の各教科の回答状況（正答・誤答）を入力し、「出力」ボタンを押して実行することで、個人票等が作成されます。

抽出校（都内全体の約10%を無作為抽出した学校）の調査結果を、8月下旬にお知らせします。プログラムにその数値を入力することで、「東京都」の欄にデータが表示されます。※入力しなくても個人票の作成は可能

表面

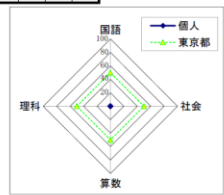
平成26年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」個人票

学年	組	出席番号
5	1	2

東京都教育委員会

◆各教科の調査結果（正答数/問題数 下段は正答率を表しています。）

教科	A 教科の内容		B 読み解く力に関する内容		AとBの合計	
	個人	東京都	個人	東京都	個人	東京都
国語	0 / 19 0.0%	9.5 / 19 50.0%	0 / 3 0.0%	1.5 / 3 50.0%	0 / 22 0.0%	11.0 / 22 50.0%
社会	0 / 20 0.0%	10.0 / 20 50.0%	0 / 6 0.0%	3.0 / 6 50.0%	0 / 26 0.0%	13.0 / 26 50.0%
算数	0 / 27 0.0%	13.5 / 27 50.0%	0 / 7 0.0%	3.5 / 7 50.0%	0 / 34 0.0%	17.0 / 34 50.0%
理科	0 / 21 0.0%	10.5 / 21 50.0%	0 / 6 0.0%	3.0 / 6 50.0%	0 / 27 0.0%	13.5 / 27 50.0%



この欄には、観点別の調査結果が表示されます。どの観点に課題があるのかを把握することで、例えば「国語に課題がある」ではなく、「●●の観点に課題がある」と、観点別に分析をし、今後の学習に役立てることができるようになっていきます。

◆観点別の調査結果（正答数/問題数）

教科	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現 (説明、説く、書く)	技能 (読む、書く)	知識・理解 (用語、事象)	読む力	取り出す力	読み取る力
国語	0 / 2	0 / 4	0 / 2	0 / 8	0 / 3	0 / 1	0 / 1
社会	0 / 2	0 / 5	0 / 4	0 / 9	0 / 2	0 / 2	0 / 2
算数	0 / 2	0 / 7	0 / 5	0 / 13	0 / 2	0 / 3	0 / 2
理科	0 / 2	0 / 6	0 / 6	0 / 7	0 / 2	0 / 2	0 / 2

裏面

◆問題ごとの結果 ⇒ 「1」は「正しく答えることができた問題」、「0」は「まちがえてしまった問題」または「記入が無かった問題」です。

〔復習の仕方〕
 ①下の表で「0」になっている問題の番号のらんを、色でぬりましょう。
 ②個人票とは別に配られる「まちがえてしまったときの復習のポイント」にも、下の表で「0」になっている番号のらんを色でぬり、復習をしましょう。
 ③復習が終わったら、もう一度やり直し、できるようにになったら番号を○でかこみましょう。

国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22												
社会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26								
算数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
理科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27							

★下の表は、復習する必要がある「東京ベーシック・ドリル」です。くり返し取り組み、できるようにしましょう。

国語	社会	算数	理科
7 種類	3 種類	10 種類	7 種類

全ての問題について、正答であれば「1」、誤答・無解答であれば「0」が表示されるようになっていきます。児童・生徒にどの問題を間違えてしまったのかを把握させ、間違えてしまった問題をできるようにさせることが大切です。その際、「間違えてしまったときの復習のポイント」を活用することができます。（※次ページ参照）

本調査において間違えてしまった問題について、具体的に立ち戻る問題を示すために、「東京ベーシック・ドリル」の項目名が表示されます。中学校の個人票には、今回の調査問題と関連のある過去の都立高等学校入試問題の問題番号も表示されます。

★過去の「東京都立高等学校入試問題」の中に、今回の調査問題と関連のある問題が出题されています。下の表は、それらの問題が出题された年度と問題番号です。ぜひチャレンジしてみてください。

国語	社会	数学	理科	英語
14 問	3 問	5 問	3 問	4 問
26年度 大問1 (1)~(5) 大問2 (1)~(5) 大問3 問1~問4	26年度 大問2 問1 大問3 問1 大問6 問1	26年度 大問1 問2 問4 25年度 大問1 問2 問4 問7	25年度 大問1 問1 問2 大問6 問1	26年度 大問1 問題A 対話文1~3 大問2 3 (2)

「間違えてしまったときの復習のポイント」の活用について

本年度は、誤答・無解答であったときに、児童・生徒がどのような復習をすればよいのかを「間違えてしまったときの復習のポイント」として配布しました。本ポイントの活用方法例を、以下に示します。

ある児童の個人票(一部)

◆問題ごとの結果 ⇒ 「1」は「正」

〔復習の仕方〕

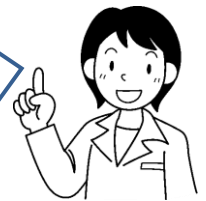
- ①下の表で「0」になっている問題
- ②個人票とは別に配られる「まちがらんを色でぬり、復習をしましょう
- ③復習が終わったら、もう一度やり

国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1

個人票の結果から、誤答・無解答の問題を把握させ、その問題に対応した「間違えてしまったときの復習のポイント」をもとに、復習させるようにします。

この児童は、社会の通し番号 1の問題である、1(1)の問題を間違えてしまったのね。

「間違えてしまったときの復習のポイント」にあるように、「方位記号の矢印の向きを確かめて、地図上の東西南北を読み取ること」に注意して、このような問題に取り組みさせるようにするとよいのね。



間違えてしまったときの復習のポイント(一部)

【社会】

問題番号	通し番号	復習のポイント
1(1)	1	方位記号の矢印の向きを確かめて、地図上の東西南北を読み取ること。
1(2)	2	どのように土地が利用されているのか、なぜそのように利用されているのかを考えること。
2(1)新潟	3	新潟県、千葉県、高知県、鹿児島県だけでなく、すべての都道府県の名称と位置を確認すること。
2(1)千葉	4	

練習

1-(1) 地図から何が分かるかな 1 年 組 前

1 次の方位記号の①～④に当てはまる方位を書きましょう。

(1))

(4)) (2))

(3))

ポイント 方位記号の矢印は、「北」をさしています。

ポイント 北の反対が「南」になります。北が上のときは、「東」が右、「西」が左になります。

2 次の地図を見て、下の①～③には当てはまる方位を、④～⑥には当てはまる建物を書きましょう。

間違えてしまった調査問題に再度取り組みさせることで、間違えていた問題ができるようになったかを確認します。

調査問題

(1) けいじくんは、完成した地図を見ながら、学校の周りの様子について説明をしています。次の説明の中の①から④までに当てはまる方位として正しい組み合わせはどれですか。下のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

学校の(1)には、田んぼや畑が広がっていて、その(2)には川が流れています。そして、学校の(3)には、市役所やけい察しがあります。また、駅の(4)側にはお店がたくさんあるので、ぼくもよく買い物に行っています。



- ア ①南 ②西 ③東 ④北 イ ①北 ②東 ③西 ④南
ウ ①南 ②東 ③西 ④北 エ ①北 ②西 ③東 ④南

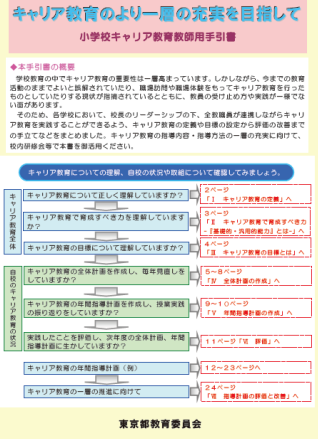
「間違えてしまったときの復習のポイント」をもとに、練習問題に取り組みさせます。特に、個人票には、復習する必要がある「東京ベーシック・ドリル」の項目が表示されますので、しっかりと取り組みさせましょう。

【観察・資料活用の技能】①

「キャリア教育のより一層の充実を目指して」 キャリア教育教師用手引書を配布しました

学校教育の中でキャリア教育の重要性は一層高まっています。しかしながら、今までの教育活動のままでよいと誤解されていたり、職場訪問や職場体験をもってキャリア教育を行ったものとしていたりする現状が指摘されているとともに、教員の受け止め方や実践が一様でない面があります。

そのため、各学校におけるキャリア教育推進の取組の参考となるよう、キャリア教育の定義や目標の設定から評価の改善までの手立てをまとめました。キャリア教育の指導内容・指導方法の一層の充実に向けて、校内研修会等で本書を御活用ください。



本手引書の構成上のポイント

- ① キャリア教育の理解、自校の状況や取組について確認することができます。
- ② 教員のキャリア教育の理解の状況等、学校の実状に合わせて、研修を行うことができます。
- ③ キャリア教育の全体計画及び年間指導計画の作成の手順を確認することができます。
- ④ 各校種、各学年の年間指導計画例が紹介されています。
- ⑤ 年間を通じたP D C Aサイクルが例示されています。

※中学校用には、「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」の観点から教科等の指導場面例が紹介されています。

年間指導計画（例） 中学校第2学年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
各教科	国語 相手の立場や考えを尊重し、目的に向って話し、目的の共有を繰り返して自分の考えを存在させる。【人】【目】	数学 日常生活や社会で数学を利用する活動に取り組ませる。【数】	社会 【歴史的分期】 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのつながりの中で我が国の歴史を理解させることとし、戦国時代や近代史の歴史や文化への関心を高める。【数】	英語 基本単語や簡単な文法を学び、英語でコミュニケーションを図る。【数】	理科 身のまわりの現象を科学的に説明し、自然の仕組みや働きについて理解を深める。【理】	道徳 道徳の重要性を認識し、道徳的行動を促す。【道】	総合的な学習の時間 職場体験事前学習 ○職場体験の事前学習を通して、様々な職業についての理解を深め、働くことの意義を学ぶ。【人】 ○社会人としてのルールやマナーを理解し、社会生活の中で実践していくこととする。【人】
道徳	4-1【4】 自己が属する様々な集団の意義や役割についての理解を深め、役割を担う責任を自覚し、集団生活の向上に努める。【人】【目】	4-7【7】 学校や学校の外で、自己の役割を自覚し、よりよい学校の実現に向けて積極的に取り組む。【人】【目】	4-8【8】 友達の強さを理解し、互いに助け合い、高めあふ。【人】	4-9【9】 等身大の生活習慣を身に付け、心身の健康を維持し、前向きな姿勢で生活を送る。【人】【目】	4-10【10】 自分の強みや得意分野を認め、自信を持って取り組む。【人】【目】	4-11【11】 自分の強みや得意分野を認め、自信を持って取り組む。【人】【目】	4-12【12】 自分の強みや得意分野を認め、自信を持って取り組む。【人】【目】
特別活動	学級活動 第2学年に連続した自己を自覚し、積極的な活動や委員会活動等での中心的な存在として、中学校における自己の役割を果たそうとする姿勢を育む。【人】【目】	生徒会 生徒会への参加を通して、中学校の一員としての自己の役割を自覚し、よりよい学校の実現に向けて積極的に取り組む。【人】【目】	運動会 競技への参加や係活動への数回参加を通して、無言で自分の役割を自覚し、よりよい学校の実現に向けて積極的に取り組む。【人】【目】	1-1【1】 等身大の生活習慣を身に付け、心身の健康を維持し、前向きな姿勢で生活を送る。【人】【目】	1-2【2】 自分の強みや得意分野を認め、自信を持って取り組む。【人】【目】	1-3【3】 自分の強みや得意分野を認め、自信を持って取り組む。【人】【目】	1-4【4】 自分の強みや得意分野を認め、自信を持って取り組む。【人】【目】

年間指導計画を作成し、キャリア教育を教育課程に位置付けることで、児童・生徒の発達段階に応じた教育活動の展開が可能になります。

各校種、各学年の「キャリア教育に関わる年間指導計画（例）」を参考に、児童・生徒、学校、地域の実態に応じた、年間指導計画の作成及び見直しをお願いします。

各校種のPDF版を「学び応援ページ」の「キャリア教育」に掲載予定です。ぜひ御活用ください。